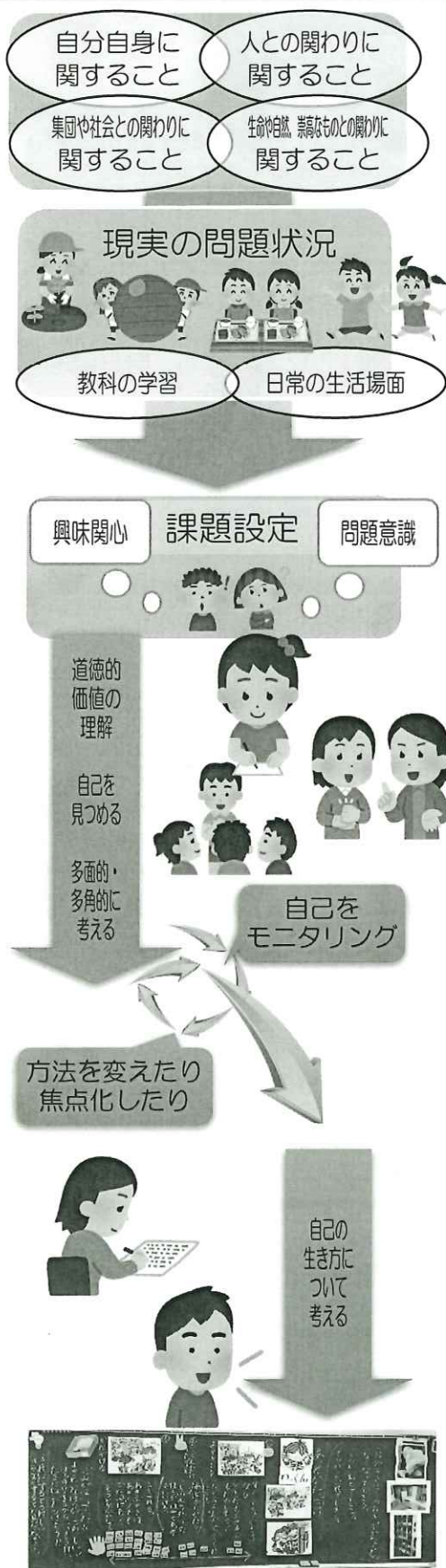




子供が学びをつくる特別の教科道徳（低学年）

特別の教科 道徳の目指す「自らの学びをメタ認知」しながら学び続ける子供	
課題設定	<p>教科の学習や日常生活場面をもとに、主題に対する興味関心を高めたり、問題意識をもったりする。</p> <p>(1) 教科の学習や日常生活場面をもとに、主題に対する興味関心を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材中の主人公になりきって共感し、考えることで、自らの体験としてその道徳的価値を自分の中に取り込んでいく。 教科の学習や日常生活場面をもとに、主題に対する興味関心をもつ。 <p>(2) 教科の学習や日常生活場面をもとに、問題意識をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ねらいとする道徳的価値の実現のよさや難しさに関わる体験や感想を表現する。
課題追究	<p>ねらいの根底にある道徳的価値を理解し、それを基に自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える。</p> <p>(1) ねらいの根底になる道徳的価値を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①価値理解 <ul style="list-style-type: none"> 内容項目を大切なことであると理解する。 ②人間理解 <ul style="list-style-type: none"> 内容項目は大切なことであっても、なかなか実現することができない人間の弱さなどを理解する。 ③他者理解 <ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は1つではない、多様であるということを前提として理解する。 <p>(2) 道徳的価値の理解を基に自己を見つめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①道徳的価値に関わる日常での体験を想起し、それを道徳的体験として共有する。 ②本時の主題に関わる問題意識（学習課題）に対して、一人一人の児童が自分なりの結論をもつ。 <p>(3) 物事を多面的・多角的に考える</p> <ol style="list-style-type: none"> ①読み物教材への自我関与をする <ul style="list-style-type: none"> 登場人物と自分を同一視する。 ②問題解決的に考える <ul style="list-style-type: none"> 問題発見・設定、問題の探究、探究のまとめをする。 ③道徳的行為に関する体験的な学習をしながら学ぶ <ul style="list-style-type: none"> 役割演技をしながら自己内対話を深める。
パフォーマンス	<p>他者と対話したり、伝え合ったりすることで、自分とは異なる立場を認めたり、理解したりすることができる。また、自らを振り返って成長を実感したり、これからの目標を見つけたりする。</p> <p>(1) 他者と対話し、伝え合うことで、自分とは異なる立場を認める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①話し合いの形態の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ペア交流、グループ交流、全体交流等 自分と同じ考えの人同士、異なる考えの人同士等 ②話し合いの方法の工夫 <ul style="list-style-type: none"> 道徳ノートやワークシートに書き込む等 ネームプレート等で立場を表現する。 <p>(2) 自らを振り返って成長を実感したり、これからの目標を見つけたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えと似ている考えや異なった考えに接する中で、自分の感じ方や考え方がどのように変わったのかを表現する。 多面的・多角的に考えを深めたことを通して、自分の生き方について考えを深め、それを表現する。

～自己を見つめ、学びの主体者となる子供～



目指す姿を実現する支援例

【教材の内容に興味や関心をもてるような導入】

- 資料の世界に入り込み、自我関与を図り、主人公になりきって考えられるよう、紙芝居で提示したり、資料の途中までのみを提示したりする。
- 主題や資料の内容に関係の深い児童の体験を意図的に取り上げ、関心を高められるようにする。

【本時の主題に関わる問題意識をもてるような導入】

- 主題に関するキーワードを提示し、イメージする事柄を共有しながら学習問題を意識できるようにする。
- 主題に関する場面絵や日常生活の写真を提示することで問題意識をもてるようにする。

【道徳的価値の理解】

- 道徳的価値について、自分自身の関わりで考えられるようにする。
- 自分の弱さやずるさなどにも目を向けて、それを表現できるような学級の雰囲気を作る。そのためには、道徳の時間に共感的に意見を聞くだけでなく、日頃の学級経営も大切にする。
- どの意見も受け入れ、認め合える学級の雰囲気を作る。

【自己を見つめる】

- これまでの経験やその時の感じ方、考え方と照らし合わせながら、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるようにする。

【物事を多面的・多角的に捉える】

- 読み物教材への自我関与が中心の学習では、登場人物（主人公）に共感し、いつのまにか登場人物の心に入り込み、自分を重ねたり、自己を問い直したりしてよりよい生き方を求められるようにする。また、教材での学びを生かして振り返りを位置付ける。
- 問題解決的な学習では、児童が自分とのかかわりを深め、主体的に考える発問を用意する。
- 道徳的行為に関する体験的な学習では、主人公等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れる。

【伝え合いの工夫】

- 本時のねらいに迫るために、どの方法での話し合い活動が有効かを考えて取り入れる。
- 板書で対比的・構造的に示したり、中心部分を浮き立たせたりすることで、より考えを深められるようにする。
- 本時のねらいに迫ることができるよう、考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問、物事を多面的・多角的に考える発問などをする。

【振り返りの工夫】

- 話し合いを行った後に、振り返りの時間を設定する。

- 学習を通して考えたことや新たに分かったこと。
- 学んだことで深く心に留めたいと考えたこと。
- これからへの思いや課題について考えたこと。